

## 編集後記

身延山大学東洋文化研究所（現・国際日蓮学研究所）は、平成二十七（二〇一五）年十一月一日に、大韓民国東国大学校仏教文化研究院と学術交流協定を締結して以来、双方の大学を会場とした講演会、研究者の交流、共同研究・調査を実施し、平成二十九年四月に東洋文化研究所が国際日蓮学研究所へ名称変更して以降も、継続的に密接な研究協力関係を築いてきた。本書（資料叢書第八卷）で取り上げた、身延文庫所蔵『菩薩戒本宗要私』一冊（『身延文庫典籍目録』「日遠A20」）は、令和元年七月一日に両研究機関が共同で行った「令和元年度 身延文庫・身延山大学附属図書館典籍調査」において調査したものであり、本書の発刊は共同研究の成果の一つである。

『菩薩戒本宗要私』は身延山第二十二世心性院日遠が、南都遊学の折、法隆寺において聴聞した『菩薩戒本宗要』の講談を記し、後年自らが講義するにあたってさらに添削を加えたものである。新羅太賢の『菩薩戒本宗要』には、日本において三十種以上の註釈書があるが、日遠『菩薩戒本宗要私』は、これまでの先行研究では取り上げられなかった、新資料といえる。この太賢『菩薩戒本宗要』の流布と思想の概要、さらにその註釈書の展開と日遠『菩薩戒本宗要私』の位置づけについて論じたものが、本巻編集担当の東国大学校仏教文化研究院HK教授金天鶴稿「『菩薩戒本宗要』の流通と註釈書の現況及びその要点」である。『菩薩戒本宗要私』の撰者日遠の事跡については、本巻編集担当の身延山大学国際日蓮学研究所研究員桑名法晃稿「身延文庫所蔵 心性院日遠『菩薩戒本宗要私』の一考察」に詳述した。

また、本書では『菩薩戒本宗要』の稀覯本である身延山大学附属図書館所蔵・古活字版『菩薩戒本宗要』も併せて影印にて掲載した。『菩薩戒本宗要私』の内容については、今後の共同研究においてさらに精査していくこととなるが、前両稿でも触れた、日遠『菩薩戒本宗要私』とも関連が見られる身延文庫所蔵『菩薩戒本宗要科本』についても、今後更なる研究を進めていく必要性がある。本資料叢書が、日本における『菩薩戒本宗要』の受容と展開、東アジア仏教における戒律観の変遷の研究、また殊に日蓮宗においては近世日蓮教団における学問研鑽、身延文庫の沿革等、今後の研究の一助となれば幸いである。

なお、原本保護の側面から、写真版の一部に不十分な点もあるが、了とされたい。

本書を刊行するに当たっては、所蔵者である身延山久遠寺、身延山大学附属図書館よりご理解とご許可を賜った。また身延文庫及び身延山宝物館、並びに身延山大学附属図書館の関係各位には、原本の調査に特別のご高配を頂いた。記して感謝申し上げます。

本書収録資料の撮影に当たっては、株式会社イーフォー河又浩昭氏に依頼し、身延山大学仏教学部准教授金炳坤先生のご協力を頂いた。ここに御礼申し上げます。

【桑名法晃 記】

※令和元年七月一日に行った共同調査には、東国大学校から成恩慶（韓国仏教融合学科博士課程）、慧聰（禅学科博士課程）の二名が調査協力者として参加した。

※本資料叢書は二〇一一年韓国政府（教育科学技術部）の財源による韓国研究財団の支援を受けた研究の成果である。（NRF-2011-361-A00008）